

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価（3月23日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が自ら学び自ら考える姿勢を育成するために基礎学力を充実させ確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かした学びの楽しさを実感できる学習活動の一層の展開を目指す。	①生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着をめざすための学習内容・方法を追求する。 ②学科併置の特色を活かし、より充実した教育活動の展開を目指す。	①ICT の活用をより一層定着させ、主体的で個別の学びにつながるよう指導する。 ②両キャンパスの教育資源を有効に活用した授業展開の確立を目指す。	①ICT を活用した学びのスタイルを教育活動の中で確立し、基礎学力を育成することができたか。 ②両キャンパスの教育資源を有効に活用し、工夫された教育活動を実践できたか。	①学校全体で研修会を行い、ICTの利活用について、主体的で個別の学びにつながるような多くの授業実践に触れる機会を作ることができた。 ②学科の枠を越えた教育活動を複数の講座で展開できた。	①ICT を活用した授業の浸透は進んだが、基礎学力の育成について、その効果や検証をさらに深めていく必要がある。 ②両キャンパスの教育資源のさらなる有効活用に向け、両科の生徒が交流し、学び合う授業を地道に実践していく。	①大型電子黒板を導入したとのことだが、小学校では、早くから導入されているため、技術が洗練されている。参考にし、より活用が拡大することを期待する。 「ふきだしくん」アプリの利用は、匿名性が保たれることにより、意見が言える生徒が増える。できるという成功体験を授業の中でも作るため、様々なアプリを活用するとよいのではないか。	①ICT の活用を中心に、授業改善が進み学習スタイルの多様化が図られた。しかし基礎学力の定着との関連や効果検証が十分とは言えない。 ②両キャンパスの教育資源活用について、さらなる連携強化と計画的な運用が必要である。	①ICTを活用した授業と基礎学力の定着を結びつけた指導方法の研究・共有を進める。合わせて電子黒板や各種アプリの活用を一層推進していく。 ②両キャンパス間の連携を一層強化し教育資源の効果的な活用に向けた仕組みづくりを推進する。
2	生徒指導・支援	①社会生活で必要となる社会的資質や行動力を高めることができるよう指導と援助を行う。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、企画・運営に関わることを通して主体性や課題解決能力、またコミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①問題行動未然防止と、集団指導と個別指導の充実、規範意識の醸成を図る。 ②部活動・委員会の活動を活性化するとともに、各行事では多くの生徒が運営に関わることのできる機会を増やし、学校生活のあらゆる場面で生徒が主体的に行動できるようにする。	①問題行動未然防止への呼びかけ、チームとして問題行動への速やかな対応と規範意識の向上を図る。 ②行事における生徒の業務内容を単純化、明文化し、主体的に活動できる支援をすすめる。また、ホームページの部活動ページの更新、部活動促進週間の実施などで、部活動加入率の向上を目指す。	①生徒対応や指導から生徒の変容が見られるようになったか。適切な集団指導、個別指導を実施できたか。 ②生徒が仕事の内容を理解し主体的に行動できていたか。部活動加入率が向上したか。	①問題発生時は、職員協力体制を作り速やかに対応した。年度当初はマナーやルールについての意識が低い生徒も多く、集団と個に応じた指導を継続して行った。次第に安定し、学校生活を過ごせるようになった。 ②行事实行委員の集会や、グーグルクラスルームを活用しての丁寧な指示伝達ができ、担当生徒は主体的に活動することが増えた。 ホームページの更新は、一部に留まり、引き続き進めていかなければならない。 部活動加入率は、R7後期時点で、昨年度31.6%より32.5%へ微増した。	①問題行動未然防止に向け規範意識のさらなる向上を図るため、継続的に全生徒への声掛けを行い、保護者、地域の方の協力を得ながら指導を行う。 ②行事实行委員の生徒は主体的に行動できるようになってきたが、これを一般生徒にも広げたい。全体が理解できるよう工夫（説明会・練習会・資料の改善・時間設定など）が必要である。 部活動加入率はまだまだ低い水準である。顧問と連携をとり、情報を発信していく。	①教員によって指導のブレが無いようにすることが重要である。また、年度の最重要課題を位置づけ、それを教員全体で指導してほしい。 その1つとして、服装指導を来年度の重点事項として考え、指導の徹底してもらいたい。 ②行事における生徒の自主的な行動について、社会に出てからも生きる力となるので今後も力を入れてやってほしい。	①マナーやルールについて継続的に生徒へ指導を行った。教員同士が連携をして指導をする中で年度末には問題行動が減少し生徒たちが安心して学校生活を送ることができるようになった。来年度は、制服の着こなし等の服装指導を重点事項として設定している。 ②体育祭・文化祭における実行委員の活動が、円滑に行えるようになった。委員の生徒のみならず、一般生徒も主体的に活動できるように働きかけたい。 部活動加入率は微増にとどまった。加入率40%以上を目指す。	①服装指導については、全教職員が共通理解のもとで組織的に取り組む。TPOに応じた身だしなみを整えることの意義を生徒自身に深く理解させ、自律的な判断に基づく生活態度の育成に重点を置く。 ②丁寧な説明と、理解しやすい資料の作成は継続する。また一般生徒へも資料を提示し、主体的に動ける環境を整える。学校公式 SNS 等を活用し、校内生徒へ部活動の最新情報を数多く発信する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①高校3年間の生活を通して、自分の特性を理解し自分を活かす進路に生徒自らが積極的に行動できるよう適性検査やキャリアパスポートを利用しながら、進路指導の充実を図る。また、高校卒業後の未来の自分をイメージして社会や仕事に対する視野を広げ、第一志望の進路実現を目指せるようにする。	①「第一志望の進路実現」に向けて、高校生活の3年間の中で自ら考え自分を見つめ直す機会が設けられるよう、キャリアパスポートの利用率を高める。	①年次毎、総合的な探究の時間の進路探究の時間に、キャリアパスポートを使った進路指導の時間を設定する。また、その実施内容についても、精査しながら行う。	①年次毎、キャリアパスポートを利用した総合的な探究の時間で実施した回数。また、その内容を分類して、行った状況の把握と評価を行う。	①年次毎に、年度始め・各定期試験の結果後(5回)・年度終わりの総合的な探究の時間に進路探究として、キャリアパスポートへの目標設定や振り返りを記入させ、各自キャリア形成を考えることができた。	①キャリアパスポートに記入した振り返りの内容について、各自で実施できる評価基準の作成と、その評価した内容について全体での状況把握ができる仕組みの構築を目指す。	①進学・就職した卒業生が、在学当時どのように考えていて、進路を決めたのかという経歴談を在校生にも示してはどうか。	①各年次毎に総合的な探究の時間(進路探究)の時間枠を使い、キャリアパスポートへ現状とその振り返りについて各自考えながら記入をすることができた。ただし、振り返りを踏まえて、自ら考えて行動するための方針を記載することには至っていない現状がある。	①どのような評価基準をすることで効果的に「第一志望の進路実現」ができる助けになるのかを考え、構築することを目指す。
4	地域等との協働	①地域とのかかわりを持ちながら積極的に貢献活動を行い、HP等での情報発信を充実させ、生徒の活動の場を広げる。 ②地域の教育力を活かした取り組みを実施する。	①本校の活動内容や学校の様子などの情報について「HPなどを活用して広く発信する。 ②これまで行ってきた地域連携活動を継続していくと共に、発展した活動を実践していく。	①HP、Instagramなどで学校の情報や活動内容を広く発信する ②「産農人」「農業体験」を充実していくと共に、独自ブランド商品の開発に取り組む。	①情報発信についてより充実することができた。 ②校内で栽培した小麦を外で製粉・製造したパンを収穫祭で販売した。 地域農家や企業と連携し、新商品の試作会や、作物の管理作業等を実施した。 関東学院大学で行われた活動発表会に参加するなど、高大連携を進めることができた。	①来年度はより本校の情報が伝わるようにInstagramなど、中学生やその保護者が見やすい媒体利用の方法を検討する。 ②今年度の活動を振り返り、常に課題を持って新しい視点で取組を進めていくことを心掛ける。	①SNS、HP等の充実だけでなく、紙などのアナログ媒体(学校のおしらせや月報など)をより充実させてはどうか。潮風アリーナや商店に掲示することで、学校の活動が自然に目に入る仕組みも大切であるとする。 ②卒業式の花等で小中学校とつながっている。総合的な探究の時間等でも小中学校と連携を行っていただきたい。	①学校の情報について、中学生などが目に入りやすいインターネット上に発信することができた。 ②農業体験や卒業式の飾花等で地域との連携は構築できている。これを「学習」として位置づけてどう関わっていくかが課題である。	①引き続き、学校の情報発信の充実 印刷物などアナログな情報発信についても検討する。 ②現在農業体験を担当している科目が固定されているので、様々な科目でも受け入れが可能になれば、幅が広がると考える。	
5	学校管理 学校運営	①両キャンパスの環境や防災体制を整備し、生徒・教職員・学校利用者が健やかに活動できる安全安心な学校づくりをすすめる。 ②教職員のワークライフバランスを充実させ、心身ともに健康で、心にゆとりを持てるような働き方の改革をすすめる。	①多様な状況を想定した避難訓練をおし、両キャンパスにわたる防災に対する体制を確立する。 ②教職員の多様なワークライフバランスに合ったサービスや働き方改革を検討実施する。	①避難訓練の実施と振り返りを行い、生徒・教職員の防災体制への理解と意識の向上を図る。 ②教職員からの意見を基に、教員の長時間勤務の向上に向けた方策を検討する。電話機の自動音声機能や録音機能を、有効的に使用する。	①避難訓練を実施し、生徒・教職員の防災体制への理解と防災意識が向上したか。 ②教職員からの意見を基に課題を検討したか。電話機機能を有効に活用することができたか。	①図上訓練など新たな避難訓練を実施し、生徒、教職員の防災体制への理解と防災意識を向上させることができた。 ②ウェルビーイングの向上に向け、働き方改革研修を開催するとともに、臨床心理士の出前相談を2回実施し、職員のメンタルケアに努めた。また、電話機の自動音声機能を活用したことで、長時間勤務の緩和につながった。	①引き続き防災訓練などを通して生徒、教職員の防災体制への理解と防災意識の向上に努める。 ②県が実施されているストレスチェックテストでは、高ストレス者が多い結果となったため、来年度も相談機関と連携を図り、臨床心理士の派遣など職員のメンタルケアに努める。	①部活動中や休み時間の訓練、放送機器が壊れた場合、校長や管理職が不在の場合など様々な状況を想定した訓練を行っていただきたい。 高い津波が起こったときは、本当に屋上で大丈夫か検討してほしい。 ②自分自身で気づかないストレスなどを周りの教職員が伝えられる風通しのよい環境が大切である。 より業務を精選して、必要のないものは積極的になくし、現場にあった働き方改革を進めてほしい	①学校における防災訓練を行い、生徒や職員の防災意識を向上させることができた。 ②ウェルビーイングの向上に向け、研修等を行うことができた。しかし、高ストレス者が多い結果が出ているのが現実である。より業務の精選が必要である。	①さまざまな状況に対応できるよう工夫をしながら、引き続き防災意識を高めるように防災訓練を続けていく。 ②ウェルビーイングの向上に向けての方策を検討実施する。 より業務の精選を行い、働き方改革を推し進める。